

**2022年度（2023年3月期）  
第2四半期決算説明資料**

2022年11月9日

---

 **住友大阪セメント株式会社**

## 1. 2022年度対策進捗

- (1) 2022年度決算概要
- (2) 2022年度対策進捗
- (3) 株主還元

## 2. 2022年度上期決算・2022年度見通し

- (1) 国内セメント需要・当社販売数量
- (2) 2022年度決算
- (3) 資産負債、キャッシュ・フロー、設備投資等の状況

## 3. 補足資料

## 1. 2022年度対策進捗

- (1) 2022年度決算概要
- (2) 2022年度対策進捗
- (3) 株主還元

## 2. 2022年度上期決算・2022年度見通し

- (1) 国内セメント需要・当社販売数量
- (2) 2022年度決算
- (3) 資産負債、キャッシュ・フロー、設備投資等の状況

## 3. 補足資料

**(1) 2022年度決算概要** (年初公表(5月)との比較)

単位：億円

	22年度			対年初(5月)公表増減		
	上期	下期 予想	年間	上期	下期	年間
売上高	957	1,117	2,074	▲23	39	16
営業利益	▲61.1	5.6	▲55.5	▲51.1	▲61.4	▲112.5
経常利益	▲54.9	8.9	▲46.0	▲56.9	▲61.1	▲118.0
親会社株主に帰属する 当期(四半期)純利益	▲29.1	23.1	▲6.0	▲34.1	▲40.0	▲74.0

本日はお忙しいなか、決算説明会にお集まりいただきありがとうございます。

はじめに2022年度上期決算と2022年度予想について、5月に公表した見通しと今年度対策の進捗状況を踏まえて説明致します。

まず2022年度上期決算についてですが、昨年度より取り組んでいるセメント販売価格の値上げ交渉が、当初計画ほど進展しなかったことや、計画策定時より石炭価格が上昇したことに加え、急激に円安が進行しました。これらの要因により、セメント事業の赤字が膨らんだことで、営業利益、経常利益、当期利益とも当初の決算見通しから、大幅な悪化となりました。

2022年度の通期につきましては、セメント販売価格の値上げ交渉を進展させ、下期では会社全体の損益を黒字にし、年間での赤字幅を少しでも多く縮小できるよう努めて参ります。



## (2) 2022年度対策進捗状況 (2022年度対策 基本方針)

2022年度は次期中計に繋ぐため、態勢の立て直しに注力

(2022年5月公表)

### ① 営業CF極大化のための事業戦略

- セメント事業の収益力改善
- セメント以外の事業の強化

### ② キャピタルアロケーションの方針

- 政策保有株式売却によるキャッシュ創出
- 環境対策を含む投資の継続・強化
- 安定配当

次に、今年度の対策の進捗状況です。

今年度は現中期経営計画の最終年度になりますが、「次期中期経営計画につなぐために、態勢の立て直しに注力する」として、① 営業CF極大化のための事業戦略と②キャピタルアロケーションの方針を5月に説明させていただきました。

## (2) 2022年度対策 進捗状況

住友大阪セメント

### ① 営業CF極大化に向けた事業戦略

セメント販売価格2,000円/t 値上げ獲得の目途。石炭在庫を積み上げ。

#### セメント 関連事業

##### コストアップに対応したセメント販売価格値上げ

- ・ほぼ全てのユーザーから有額回答を獲得。
- ・満額に満たない分と、追加値上げ3,000円の早期獲得を目指す。

##### 石炭の安定調達

- ・ロシア炭の比率を下げるとともに、半年分まで在庫を積み上げ。
- ・今期調達数量の大半が契約済。

#### 高機能品 事業

##### ESC（静電チャック）需要拡大への早期対応による収益増

- ・2021年度下期から増産体制構築中。

6

営業CF極大化に向けた事業戦略では、セメントの値上げ、石炭の安定調達、ESCの需要拡大対応を掲げましたが、一つ目の値上げについては、昨年11月に公表した2,400円の値上げに対し、ほぼ全てのユーザーから有額回答を得ており、満額に満たない一部のユーザーについては、継続して交渉を進めています。

既に全ユーザー平均で2,000円程度の獲得の目途がついており、7月に追加で打ち出した3,000円の値上げ交渉についても、並行してユーザーとの交渉を進めています。

当初の計画より進捗は遅れていますが、時間の経過とともに値上げの効果が浸透してきています。

二つ目の石炭の安定調達ですが、今後ロシア炭が輸入できなくなるリスクを避けるために、他国からの輸入や他産業からの融通等により、在庫を半年分まで積み上げています。また、今期に調達する数量の大半は、既に契約が済んでいることから、今後、石炭市況がさらに高騰したとしても、2022年度通期業績への大きな影響はないと思われます。

ESCの需要拡大への対応では、顧客からの増産要請を強く受け、2021年度の下期から段階的に増産体制を構築しており、2023年度までの顧客の所要に対応できるよう体制を整えています。

## (2) 2022年度対策 進捗状況 ②キャピタルアロケーション

住友大阪セメント

### 営業CF縮小の中、有利子負債と政策保有株式売却により設備投資・株主還元

当初計画		今期予想	
IN	OUT	IN	OUT
<b>財務CF：130億円</b> ・有利子負債	<b>投資CF：336億円</b> ・環境投資 70億円 ・維持更新他 266億円	<b>財務CF：430億円</b> ・有利子負債	<b>投資CF：368億円</b> ・環境投資 70億円 ・維持更新他 297億円
<b>営業CF：212億円</b> ・営業利益 57億円 ・減価償却費 209億円 ・その他 ▲54億円		<b>営業CF：▲44億円</b> ・営業利益 ▲55億円 ・減価償却費 205億円 ・その他 ▲194億円	
<b>投資CF：50億円</b> ・政策保有株式売却	<b>株主還元：56億円</b> ・配当 41億円 ・自己株取得 15億円	<b>投資CF：67億円</b> ・政策保有株式売却	<b>株主還元：56億円</b> ・配当 41億円 ・自己株取得 15億円

次にキャピタルアロケーションです。

先ほど申し上げた石炭の対策を上期に実施してきたことにより、営業CFが当初計画より縮小していますが、有利子負債による調達と政策保有株式売却により、環境投資や維持更新などの必要な投資を実施するとともに安定配当を継続します。

## (2) 2022年度対策 進捗状況 政策保有株式の削減状況

住友大阪セメント

### 政策保有株式の削減目標

今後2年間で純資産比20%未満とする  
今後5年を目途に純資産比10%未満とする

今後2年間の想定削減額 135億円  
今後5年を目途での想定削減額 335億円

(削減額は2022年3月時価ベース比)

(2022年5月公表)

**2022年度は67億円の削減を予定（上期実績23億円）**

政策保有株式については、5月に削減目標を定め、今後2年間で純資産比20%未満に削減し、削減額は3月の株価前提で135億円と説明しました。そのうち、今年度は67億円を削減する予定です。既に上期において23億円を削減しており、9月末時点での純資産比は22.3%となっています。

### (3) 株主還元

#### ■ 配当の基本的考え方

安定的な配当を継続することを基本に、事業環境、業績見通しや前期配当状況等を総合的に勘案し決定する。

#### ■ 自己株取得については、

業績動向と政策保有株の売却も含め、配当後キャッシュフローの状況に応じて検討する。

単位：円/株

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度 予想
中間配当金	55	60	60	60	60
期末配当金	55	60	60	60	60
合計	110	120	120	120	120

最後に株主還元についてです。当社の株主還元は安定配当と状況に応じた自己株取得を基本としています。今年度は赤字見込みという非常に厳しい状況ではありますが、政策保有株式売却を原資に従来からの方針である安定配当を維持します。

来期での業績回復に向けて、努力して参りますので、引き続きご支援のほど、宜しくお願い致します。

## 1. 2022年度対策進捗

- (1) 2022年度決算概要
- (2) 2022年度対策進捗
- (3) 株主還元

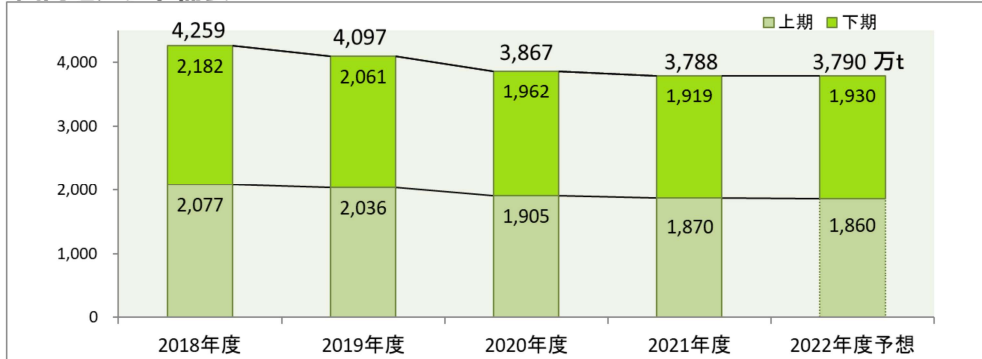
## 2. 2022年度上期決算・2022年度見通し

- (1) 国内セメント需要・当社販売数量
- (2) 2022年度決算
- (3) 資産負債、キャッシュ・フロー、設備投資等の状況

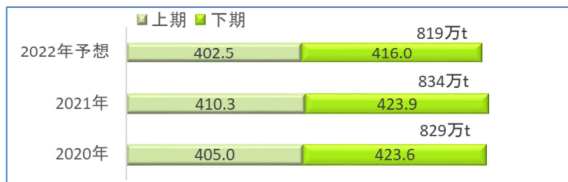
## 3. 補足資料

## (1) 国内セメント需要・当社販売数量

### 国内セメント需要



### 当社国内販売数量



### 当社輸出数量



2022年度の国内セメント需要は、年間で3,790万tと想定しています。年初は3,800万tの想定としていましたので、10万tの下方修正です。上期が10万tの減少、下期は年初想定通りと見込んでいます。

当社の販売量のうち、輸出数量は前年度に比べ、縮小しています。上期は、中国のロックダウンの影響を受けた中国向けの減少はございますが、下期にはある程度は通常の水準に戻ると見込んでいます。スポット向けについては抑制していくことを考えていまして、下期想定は65万tとしています。

**(2) 2022年度決算 概要**

単位：億円

	22年度			対前年増減			対年初公表増減		
	上期	下期 予想	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高	957	1,117	2,074	66	166	232	▲23	39	16
営業利益	▲61.1	5.6	▲55.5	▲112.9	▲11.4	▲124.3	▲51.1	▲61.4	▲112.5
経常利益	▲54.9	8.9	▲46.0	▲124.7	▲19.7	▲144.4	▲56.9	▲61.1	▲118.0
親会社株主に帰属 する当期(四半期) 純利益	▲29.1	23.1	▲6.0	▲89.5	▲13.2	▲102.8	▲34.1	▲40.0	▲74.0

2022年度は上期・年間で利益が赤字となっております。セメント事業での赤字によるものでございますが、下期は値上げによりセメント事業の赤字が縮小し、会社全体では黒字化すると考えています。年間の経常利益と当期純利益の間で、約40億円の差がございますが、この中に投資有価証券売却益を見込んでおり、上期では16.6億円が計上されています。



## (2) 2022年度決算 (セグメント別売上高)

## 売上高

単位：億円

	22年度			対前年増減			対年初公表増減		
	上期	下期予想	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
セメント	650	758	1,408	36	106	141	▲29	21	▲8
鈹産品	68	71	139	8	7	16	3	8	11
建材	103	122	225	3	15	18	1	14	15
セメント関連計	821	950	1,772	47	128	175	▲25	42	18
光電子	11	12	24	▲6	▲8	▲14	▲3	▲1	▲4
新材料	102	132	234	34	54	88	4	2	6
高機能品計	113	144	257	27	46	74	1	1	2
その他	22	23	45	▲9	▲8	▲17	▲1	▲4	▲5
合計	957	1,117	2,074	66	166	232	▲23	39	16

2022年度年間の売上高は合計で2,074億円としており、対前年で232億円の増収を見込んでいます。

セメント事業および鈹産品事業で、値上げなどがございまして増収となります。また、新材料事業におきまして、半導体製造装置用の部材である電子材料の販売増加が見込まれています。

## (2) 2022年度決算 (セグメント別営業利益)

## 営業利益

単位：億円

	22年度			対前年増減			対年初公表増減		
	上期	下期予想	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
セメント	▲114.0	▲57.7	▲171.7	▲122.7	▲25.1	▲147.8	▲58.0	▲57.7	▲115.7
鉱産品	12.6	11.4	24.0	1.7	▲0.3	1.4	1.1	▲0.8	0.3
建材	7.0	14.3	21.2	▲1.3	4.3	3.1	▲2.0	2.0	0.0
セメント関連計	▲94.4	▲32.0	▲126.4	▲122.3	▲21.1	▲143.4	▲58.9	▲56.5	▲115.4
光電子	▲1.5	▲1.7	▲3.2	▲2.0	▲2.2	▲4.2	▲0.6	▲1.4	▲2.0
新材料	26.8	30.3	57.2	13.2	10.9	24.1	9.4	▲3.7	5.8
高機能品計	25.3	28.6	53.9	11.3	8.6	19.9	8.8	▲5.1	3.8
その他	8.7	8.9	17.7	▲0.7	1.3	0.7	▲0.3	0.2	▲0.1
合計	▲61.1	5.6	▲55.5	▲112.9	▲11.4	▲124.3	▲51.1	▲61.4	▲112.5

セメント事業につきましては2022年度年間で▲171.7億円の赤字を見込んでおり、対前年・対年初予想とも大幅な減益となります。詳細については、次の「セメント営業利益増減内訳」で説明致します。

下期は、値上げでセメント事業の赤字を約半分にするのと、他の事業の営業利益によって、セメント事業の赤字を打ち消して全体でも黒字化する計画としています。高機能品では、光電子事業が減益となっており、赤字の想定としています。光通信部品の販売減少によるものです。

新材料事業においては、電子材料の販売の増加と電子材料ほどではありませんが、化粧品材料の販売増加があり、対年初でも増益を見込んでいます。

(2) 2022年度決算 (セメント営業利益増減内訳)

単位：億円

	21→22年度			対年初公表
	上期	下期予想	年間	年間
販売・生産数量	▲ 5	▲ 4	▲ 8	▲ 5
販売価格	24	76	100	▲ 22
石炭・石油価格	▲101	▲ 67	▲168	▲ 68
電力・原材料価格	▲ 13	▲ 19	▲ 32	▲ 11
リサイクル原燃料	0	2	2	0
為替	▲ 22	▲ 38	▲ 60	▲ 35
その他	▲ 6	25	18	25
<b>セメント 営業利益増減</b>	<b>▲123</b>	<b>▲ 25</b>	<b>▲148</b>	<b>▲116</b>

感 応 度	石炭	1\$/t 上昇	1.2億円/年 悪化
	石油	1\$/bbl 上昇	0.5億円/年 悪化
	為替	1円/\$ 円安	2.5億円/年 悪化

対前年の年間では、価格は輸出も含めて、100億円の値上げ効果を見込みますが、石炭・石油価格および電力・原材料価格の購入コストによって、合わせて▲200億円の減益となります。加えて、為替でも▲60億円の減益がございまして、これらを差し引きすると合計で▲148億円の減益となる見通しです。

石炭・石油価格、為替の感応度を下段に掲載しています。為替は136円/\$の想定で、対前年では24円/\$の円安です。

上期の実績が132円/\$、下期想定は140円/\$としています。

対年初公表との比較ですが、石炭・石油価格で▲68億円の悪化です。為替は▲35億円の減益ですが、年初は125円/\$と想定していましたが、11円/\$の円安です。

販売価格は▲22億円の未達としています。これは上期の値上げの遅れによるものです。下期はほぼ年初想定並みの値上げ効果を見込んでおり、最初の2,400円/tの値上げは少し後ろにずれこんでいるので、マイナスとなっていますが、追加の値上げを一部取り込んで相殺されることで年初想定並みの値上げ効果としています。

## (3) 資産負債の状況

	22年3月末 実績	22年9月末 実績	23年3月末 予想
現金及び預金	131	173	160
有形固定資産	1,692	1,738	1,804
投資有価証券	594	480	436
その他の資産	893	1,135	1,166
資産計	3,311	3,526	3,566
有利子負債	566	891	996
その他の負債	713	745	678
負債計	1,279	1,636	1,675
純資産	2,032	1,889	1,891
負債・純資産計	3,311	3,526	3,566

単位：億円

投資有価証券については、22年3月末実績から23年3月末予想において、158億円ほどの減少を見込んでいます。投資有価証券の売却を進めていきますが、時価評価額も下がっていますので、それも含めての減少となります。その他の資産が大幅に増加していますが、石炭の在庫積み増しに伴う棚卸資産の増加によって、上期だけで225億円の増加がございました。有利子負債はこの1年で430億円増加する見込みです。これは次の「キャッシュ・フローの状況」で説明致します。

## (3) キャッシュ・フローの状況

	22年度 上期	22年度 下期予想	22年度 年間予想
税金等調整前当期(四半期)純利益	▲ 42	41	▲ 2
減価償却費	94	111	205
債権・債務増減、法人税他	▲ 210	▲ 39	▲ 248
営業キャッシュ・フロー	▲ 158	113	▲ 44
固定資産取得	▲ 117	▲ 260	▲ 378
資産等売却	24	51	75
その他	2	▲ 1	2
投資キャッシュ・フロー	▲ 91	▲ 210	▲ 301
フリーキャッシュ・フロー	▲ 249	▲ 97	▲ 345
有利子負債増減	325	105	430
自己株式取得(含む預託金支出)	▲ 15	0	▲ 15
配当金支払他	▲ 22	▲ 21	▲ 43
財務キャッシュ・フロー	288	84	372
現金及び現金同等物の増減	41	▲ 12	29

17

営業キャッシュフローが年間で▲44億円のキャッシュアウトとなっております。債権、債務の増減、法人税他の項目に棚卸資産の増加によるキャッシュアウトが含まれています。投資キャッシュフローは固定資産の取得で▲378億円のキャッシュアウトに対して、資産等売却で75億円のキャッシュインを見込んでおります。これは投資有価証券の売却を進めていることによるものです。フリーキャッシュフローの▲345億円のキャッシュアウトを有利子負債の増加430億円で埋め合わせするという考えです。

**(3) 設備投資等の状況**

単位：億円

	21年度 実績	22年度 予想
設備投資	207	324
減価償却費	194	205
研究開発費	31	30

設備投資は22年度予想を324億円としており、21年度の207億円から100億円以上の増加を見込んでいます。この増加はカーボンニュートラルによる投資の増額と、需要好調の新材料事業の増産投資、あとは維持・更新として今年度は船のリプレースや発電所の定期的な審査に関わる更新投資が多いこともございまして、今年度は設備投資が増加しています。

## 1. 2022年度対策進捗

- (1) 2022年度決算概要
- (2) 2022年度対策進捗
- (3) 株主還元

## 2. 2022年度上期決算・2022年度見通し

- (1) 国内セメント需要・当社販売数量
- (2) 2022年度決算
- (3) 資産負債、キャッシュ・フロー、設備投資等の状況

## 3. 補足資料

### 3. 補足資料（業績等の推移）

単位：億円

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度 予想
売上高	2,511	2,452	2,393	1,842	2,074
セメント関連	2,249	2,205	2,170	1,597	1,772
高機能品	196	185	172	196	257
その他	65	61	51	50	45
営業利益	141.8	161.3	166.3	68.8	▲ 55.5
経常利益	158.0	169.5	176.4	98.3	▲ 46.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	78.0	109.2	117.2	96.7	▲ 6.0
総資産	3,248	3,211	3,297	3,311	3,566
有利子負債	611	526	514	566	996
純資産	1,941	1,987	2,058	2,032	1,891



## 3. 補足資料（業績等の推移）

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度 予想
ROA (%)	4.8	5.2	5.4	3.0	▲ 1.3
ROE (%)	4.0	5.6	5.9	4.8	▲ 0.0
D/E (%)	31	26	25	28	53
FCF (億円)	92	135	139	22	▲ 345
設備投資 (億円)	190	202	215	207	324
減価償却費 (億円)	185	183	188	194	205
研究開発費 (億円)	32	31	32	31	30
金融収支 (億円)	10	10	10	20	13
期末従業員数 (人)	2,974	3,005	3,065	3,068	-

### 3.補足資料（2022年度 単体決算状況）

#### 単体売上高

単位：億円

	22上期 実績	22下期 予想	22年間 見通し
セメント関連	655	774	1,429
高機能品	109	140	250
その他	13	13	26
合 計	778	927	1,705

#### 単体損益

営業利益	▲ 73.4	▲ 26.1	▲ 99.6
経常利益	▲ 68.0	▲ 22.4	▲ 90.4
当期純利益	▲ 37.5	1.5	▲ 36.0

### 将来に関する記述等についての注意事項

- ・本資料における将来の業績等は、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものです。
- ・実際の業績等はさまざまなリスク要因や不確実な要素により、異なる可能性があります。

 住友大阪セメント株式会社